

③技能指導について…学年ごとの積み重ねが大切！

今回活動で扱った「ローラー」は、低学年から扱っている。図工では学年ごとに使用する主な用具も定められており、学年を重ねながら少しずつ用具に慣れていく。ローラーの使い方や技能においてはそれぞれの学年ごとに重ねて指導し、経験を積み重ねることが大切！またグラデーションの技能に関しては、事前に練習するほどではない。題材に関わっていく中で、グラデーションのやり方は感覚的に覚えていくのが理想。今回の活動の中では、自分の空のイメージに向き合いながら「グラデーション表現を用いて」複雑な色の重なりを楽しむという活動でもよかったかも。技能の習得の先に本時の目的があるとよいのでは。

(2) 講師：竹内とも子先生の講評より

<講評の主なポイント まとめ>

☆用具・素材の選択について

- ・ボール紙…子供の活発な活動を促す。白い紙だと「何を描こう…緊張するなあ。」と思うような子もすんなりと活動に入ることができる。子供の目線になって、うまく活動に入ることができるような素材を選ぶのも大切な教材研究の一つである。
- ・ローラーの特性…○良い点→活動に差がでにくい。スピード感や思いがけない色の変化が生まれる。
 - 留意点…線が直線的になる。線の形、表現の方向が限られる。

⇒用具・素材の特性を教師が理解し、厳選して提示することが大切。

☆作業と指導について

用具の使い方の指導をした後の技能の定着には、子供たち自身の作業が必要不可欠。子供たち自身が何度も何度も用具や素材と関わりながら、「自分なりの用具の使い方」を習得していく。こちらが知識を教えたり、技能を定着させる活動をとったりすることも必要だが、子供が作業の中で自然に技能を獲得していくことも理解する。

☆知識・技能は切り離して育成するものではない！

今回の「グラデーションの技能」とも関連しているが、図工では必ずしも「知識・技能」の後に「思考力、判断力、表現力等」を身に付けるのではない。「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」は相互に関連させながら身に付くようにする資質・能力である。裏面でも取り上げたように、技能を確実に習得してから次の活動に進むのではなく、活動の中で何度も題材に関わる時間をたっぷりととることで、子供たちが自然と技能を習得できるようにしたい。

～「ここがすごかった!!」ポイント～

☆先生の教材研究がすごい！

→個人的に色の選択がよかったと思いました。特にピンク！彩度が高く、蛍光色のような鮮やかさ…。画面の中に入れると、アクセントとなりうまく他の色を引き立てているなあと思いました。図工における教材研究では、「使ってみたい!」と思わせるような素材の選択が大切だなあと勉強になりました。

☆竹内先生の作品例がすごい！

→講評の際に見た作品例の数々…。素晴らしかったですよね！子供たちが、版の特徴を理解した上で活動している姿が目につきました。特に色の重なりやリピテーションを楽しんでいるような作品が多く見られた気がします。なおかつ、作品のモチーフが抽象的なものが多かったですね！「睡魔」など…。表現したいことが、形のあるものだけでなく多岐にわたっていることから、子供たちの造形的な視点を豊かにする指導をされているんだなあ勉強になりました。